



日本キリスト教団
三軒茶屋教会

三軒茶屋教会通り

〒154-0024
第28号 2006年12月発行 東京都世田谷区三軒茶屋 1-31-5
TEL/FAX: (03)3418-4933
発行: 三軒茶屋教会

クリスマスを迎えました。イエス・キリストご降誕の出来事を、人びとはなぜ喜ぶのでしょうか。また、世の中で一般化したクリスマスという祝祭日に、人びとは何を期待しているのでしょうか。

聖書の記事によれば、キリスト(その意味は「救い主」)の来臨をめぐって、人びとのさまざまな反応がありました。あの救い主誕生の夜、宿屋が満員で断られたヨセフとマリヤは仕方なく馬小屋に宿をとらざるを得ませんでした。知らざることとは言え、この世は自らの物的安泰のみを守

ろうとし、救い主を受け入れる余地を持たず、冷たくあしらっている姿が象徴されています。また、時の王ヘロデは、救い主誕生を聞いて自らの地位を脅かされると思い、「不安を抱いた」とあります。しかし、世を憂い新しい時代の到来を待望していた東方の占星術の学者らは、長旅をもいとわずベツレヘムに辿り着き、幼子を拝み、贈り物を献げたのでした。また、夜通し羊の群れの番をしていた最下層の羊飼

低きを照らす光

牧師 陣内厚生

いたちに天使が現れた時、彼らは恐れたのです。だが、「恐れるな」の声と共に救い主誕生の報せを聴き、一挙に喜びにあふれ、飼葉桶に寝かされている幼子を探し当て、「神をさがめ、讚美」したのです。

この降誕の記事は、その後のキリストの生涯を予兆していました。宗教改革者ルターは、新約聖書全体をキリストが寝かされていた飼葉桶と見なしています。すなわち、キリストの生涯は飼葉桶に象徴されるよう

な、清貧、謙遜、柔和、節制、従順を、文字通り実証したものでした。「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕(しもべ)の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。」(フィリピの信徒への手紙二の六、八)と。

さて、人びとはこのような生涯を



ましてや、世の人びとのイエス・キリストに対する期待、ただの人、でなく高貴、権勢、富裕、栄華をもたらす救い主であつてほしいとの

送られたキリストをどのように受けとめているのでしょうか。救い主到来を予告し悔い改めを迫った洗礼者ヨハネさえも、キリストの行状に疑いをもち、「来るべき方は、あなたでしようか」と尋ねています。そこに返ってきた言葉は、福音を示し、「わたしにつまづかない人は幸いです」でした。続くキリストの弟子たち、ペトロをはじめことごとくつまづきを体験しました。イスカリオテのユダについては周知の通りです。

願いは、見事に裏切られたのでした。そうです。イエス・キリストは実にこの世の陽の当たらぬ、暗く淋しい、低き所、に來られたのです。それは私たち一人ひとりの心に希望の光をもたらすためにでありました。ですから、救い主の生涯につまづくのではなく、希望の光に、いまあずかるうではありませんか。今年のクリスマスが、必ず期待以上の内なる喜びの時となることでしょう。「神に栄光、地には平和！」